

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆7～9月GDP「ゼロ成長」の民間予測 内需回復もインフレ再燃懸念

・4～6月期GDP速報値を踏まえ、民間エコノミスト10人に最新の経済見通しを聞いた。7～9月期は平均で実質前期比0.0%増、年率換算でも0.0%増。過半が4四半期連続のプラス成長を見込むが、ペースは鈍りそう。7～9月期の実質成長率の予測値の幅は、年率で1.7%減～1.6%増と差が出た。プラス成長が7人で、3人はマイナス成長を見込んだ。

◆台風時の出社・帰宅基準「完全に策定」4割止まり 民間調査

・メディア系スタートアップのJX通信社は「台風・風水害に対する企業の防災意識と対策に関する調査」を発表。台風・風水害を事業継続の「重大なリスク」と認識する企業は83.1%。拠点が浸水想定区域など水害リスクの高い立地にある企業では93.9%に上った。一方で、前日までの出社や帰宅の判断基準を「完全に策定済み」と答えたのは41%にとどまった。

◆若手の5割、仕事関係の飲み会「参加したい」 民間調査

・共通ポイント「Ponta(ポンタ)」を手がけるロイヤリティマーケティングは世代別の飲み会意識に関する調査を発表。仕事関係の飲み会について、若手層の約5割が「参加したい」と回答。世代別では20～30歳の若手層で参加意欲が高い結果となった。参加したい理由について、若手層では「職場の人と親しくなれるから」が最も多く、49.4%。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆26年度の建設投資額6.3%増 住宅着工数も持ち直し

・建設経済研究所と経済調査会がこのほど公表した「建設経済モデルによる建設投資の見通し」によると、2026年度の建設投資は前年度比6.3%増の83兆2600億円になると予測。2027年度は同3.7%増の86兆3500億円となる見込み。26年度は民間住宅分野が前年度の省エネ基準適合義務化などに伴う反動減から持ち直す。

◆東京製鉄、9月鋼材価格を2カ月連続据え置き

・東京製鉄は9月契約分の鋼材価格を全品種で据え置くと発表。据え置きは2カ月連続。収益環境が厳しい中、前月に続き市況の動向を見極め、これまでの値上げを確実にする姿勢。販売価格はビルの柱や梁(はり)に使うH形鋼が1トン11万6000円、鋼板の母材となるホットコイルが10万円など。溶融亜鉛めっきコイルは年明けまで売り出しを取りやめる。

◆モバイルバッテリー、販売店に回収網 発火事故防止へ環境省が実証

・環境省はスマートフォンの充電などに使うモバイルバッテリーを販売店で回収する実証事業を10月にも始める。利用者に身近な店舗を使い、自治体の分別回収を底上げ。内蔵するリチウムイオン電池がゴミ処理施設で発火する事故を防ぐ。埼玉県越谷市と兵庫県佐用町で実施。越谷市はアンカー・ジャパン、佐用町はホームセンターアグロなどと連携する。

《 注目商品 》

■三協立山・三協アルミ社、太陽電池一体型アルミ手すり

・中低層から高層まで対応可能な同社のアルミ手すり「FINEMASTER(ファインマスター)」をベースとし、様々なメーカーやサイズの太陽光パネルを組み込めるビル・集合住宅向けの太陽電池一体型アルミ手すり。笠木内部の空間を電気配線に利用し美しい外観を実現。



■岩崎電気、光害対策形LED投光器「レディオック フラッド アヴァン 光害対策形」

・光害対策形LED投光器「レディオック フラッド アヴァン 光害対策形」をリニューアルし受注開始。野生生物や夜空、居住者・交通への影響に加え、漏れ光はエネルギーの無駄にもつながることから、光害対策形LED投光器の需要が高まっている。



■シャープ、プラズマクラスターオウルフローハンディファン「PJ-HS01」

・独自のイオン発生技術を搭載し、衣類についた汗の臭いなどを消臭できる。ファンの断面に膨らみを持たせることなどで、大風量と静音を両立。バッテリーには廃棄時に取り外し可能なリチウムイオン電池を採用。

